

中 学 校

令和 6 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
	1 調査研究	3
	2 授業検討・検証授業	3
	3 研究構想図	4
V	研究の内容	5
	〈指導事例 1 : 第 1 学年〉	5
	〈指導事例 2 : 第 2 学年〉	8
	〈指導事例 3 : 第 3 学年〉	11
VI	研究のまとめ	14

研究主題

根拠を明確にして考える力を育成する 「読むこと」の指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「根拠を明確にして考えること」について、中学校学習指導要領解説国語編（以下、「解説」という。）では、「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関係付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題がある。」と示している。

実際に、「令和5年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）（以下、「全国調査」という。）の国語に関する調査（中学校第3学年対象）では、表1のように「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること」（正答率 67.4%、無解答率 0.5%）や、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」（正答率 54.1%、無解答率 18.1%）に課題が認められた。

表 1

問題 番号	出題の趣旨	正答率	無解答率
		東京都 (公立)	東京都 (公立)
2 二	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	67.4%	0.5%
4 三	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	54.1%	18.1%

なお、「令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書【質問紙調査】」（文部科学省）では、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に肯定的な回答をしている生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られると報告されている。

これに関連して、「令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）（以下、「都調査」という。）では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを示すことに関して、表2のように「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した学校が 93.3%であるのに対し、生徒は 71.0%となっており、東京都全体で意識の差が見られた。

表 2

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
学校調査 【中学校】 第3学年	4(6)児童・生徒が学習した内容を振り返る際に、どのように振り返ったらよいかを具体的に示すようにしている。	38.3%	55.0%	6.4%	0.2%
児童・生徒調査 【中学校】 第3学年	12(6)授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。	22.9%	48.1%	21.6%	7.4%

以上のことから、中学校における「読むこと」の指導では、文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考える力を身に付けさせることに課題があると考えた。これは、説明的な文章に関する授業において、文章の内容を確かめる指導に重点が置かれ、文章の形式について精査・解釈させる指導が十分ではないことに一因があると考えられる。また、学習した内容について、自分の学びを振り返ったり、次の学びに生かしたりすることができるよう指導を改善する必要がある。

そこで、本研究では、研究主題を「根拠を明確にして考える力を育成する『読むこと』の指導の工夫」とし、「読むこと」の領域で求められる指導の工夫について研究を行うこととした。

Ⅱ 研究の視点

「読むこと」における「精査・解釈」について、「解説」では「文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて意味付けたり考えたりすることである。」とし、文章の形式に関する「精査・解釈」の指導事項を表3のとおり示している。

表3

	文章の形式に関する「精査・解釈」の指導事項
第1学年	エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
第2学年	エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。
第3学年	ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

また「根拠を明確に」することについては、「例えば、文章の構成や展開、表現の効果について自分の考えを書いたり発表したりする際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げることが考えられる。」（「解説」）と示されている。

このことを踏まえ、本研究では「根拠を明確にして考える力」について、以下のよう

文章の構成や論理の展開、表現の効果等について精査・解釈し、 目的に応じて意味付けたり考えたりする力
--

Ⅲ 研究の仮説

本研究では、以下の2点の指導方法の工夫に取り組むことで、「読むこと」における根拠を明確にして考える力を確実に身に付けさせることができると考える。

1 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

文章の形式について根拠を明確にして考えることができるようにするため、観点を明確にして複数の文章を比較したり関係付けたりして、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などに着目できるようにする言語活動を設定する。

観点を明確にして複数の文章を比較したり関係付けたりすることで、文章の形式について教師から説明するのではなく、生徒が主体的に考えることが期待できる。比較したり関係付けたりする際の観点については、第1学年では教師が示し、第2学年では既習

事項から選択させるなどして段階的に指導し、第3学年では自ら考えた観点に沿って文章の形式について評価できるようになるよう指導していく。

また、理解したことや考えたことについて、根拠となる段落や部分などを示しながら相互に説明させ、他の生徒との対話によって自分の考えを広げたり深めたりできるよう指導する。

2 意図的・計画的な振り返りの設定

文章の形式について根拠を明確にして考えることができるようにするため、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整し、次の学びに生かすことができるようにする振り返りを学習過程の中で意図的・計画的に設定する。

本研究では、単元の目標に正対した学習の調整を促すため、生徒が理解しやすい表現で単元の目標を示す。そして、それらを板書やワークシート等を用いて繰り返し提示することで、生徒が「何について振り返ればよいのか」を理解できるよう指導していく。また、振り返りの時期については、内容や時間のまとまりごとに、生徒の学習状況を教師が把握できる段階で行えるよう工夫する。

—仮説—

自分の考えを支える根拠となる段落や部分などに着目できるようにする言語活動を設定するとともに、自らの学習を調整して次の学びに生かすことができるようにする振り返りを学習過程の中で意図的・計画的に指導することで、生徒は文章の形式について根拠を明確にして考える力を伸ばすことができるであろう。

IV 研究の方法

1 調査研究

令和5年度の「国調査」や「都調査」等の調査結果を分析し、東京都の中学生（公立）の国語の課題を明らかにする。

2 授業検討・検証授業

研究の視点に基づき、単元の学習において、以下のような指導方法の工夫を行うことで、「根拠を明確にして考える力」の育成を図る。

- ① 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定
- ② 意図的・計画的な振り返りの設定

このような指導方法の工夫に取り組んだ単元による検証授業を実施し、ワークシートや振り返りシートに生徒が記述した内容を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

- (1) 文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考えることができたか。
- (2) 根拠を明確にして考える力を身に付けるために、どのような試行錯誤をしたか。

3 研究構想図

【中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月） 国語 目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【生徒の実態】

- ・ 「令和 5 年度全国学力・学習状況調査」中学校国語（文部科学省）
2 二「観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる」問題で正答率が 67.4%となっている。
4 三「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題で正答率が 54.1%、無解答率が 18.1%となっている。
- ・ 令和 5 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）
学習した内容をどのように振り返ったらいいかを示すことに関して、学校調査で回答した学校の 93.3%が肯定的に回答している。一方、肯定的に回答している生徒は 71.0%となっており、学校と生徒との意識の差がみられる。

【指導の実態】

- ・ 文章で述べられている内容を確認する指導に重点が置かれ、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えさせる指導が十分ではない。
- ・ 学習した内容について、自分の学びを振り返ったり次の学びに生かしたりすることができるよう指導を改善する必要がある。

【身に付けさせたい力】

文章の構成や論理の展開、表現の効果等について精査・解釈し、目的に応じて意味付けたり考えたりする力

第 1 学年……文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力

第 2 学年……観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える力

第 3 学年……文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する力

研究主題

根拠を明確にして考える力を育成する「読むこと」の指導の工夫

一研究仮説一

自分の考えを支える根拠となる段落や部分などに着目できるようにする言語活動を設定するとともに、自らの学習を調整して次の学びに生かすことができるようにする振り返りを学習過程の中で意図的・計画的に指導することで、生徒は文章の形式について根拠を明確にして考える力を伸ばすことができるであろう。

【研究の視点】

① 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

文章の形式について根拠を明確にして考えることができるようにするため、観点を明確にして複数の文章を比較したり関係付けたりして、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などに着目できるようにする言語活動を設定する。

② 意図的・計画的な振り返りの設定

文章の形式について根拠を明確にして考えることができるようにするため、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整し、次の学びに生かすことができるようにする振り返りを学習過程の中で意図的・計画的に設定する。

【研究の成果と課題】

検証授業後、ワークシートの記述内容を基に、以下の観点で考察することによって仮説を検証する。

- (1) 文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考えることができたか。
- (2) 根拠を明確にして考える力を身に付けるために、どのような試行錯誤をしたか。

研究で主に扱う指導事項（中学校学習指導要領国語）

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項 ア（第 1 学年～第 3 学年）

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと (1)エ（第 1 学年、第 2 学年）、ウ（第 3 学年）

V 研究の内容

＜指導事例 1：第 1 学年＞ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力を育成する指導事例

1 単元名

文章に説得力をもたせる工夫について考えよう

2 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕 (2) ア
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切に、想いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	① 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C (1) エ)	① 粘り強く文章の構成や展開、表現の効果について考え、学習の見通しをもって文章に説得力をもたせる工夫について考えようとしている。

4 教材

- ・教材文（『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ）鈴木俊貴「国語 1」光村図書）
- ・資料文（教材文の一部を除いた資料を教師が作成）
- ・ワークシート、振り返りシート

5 主な学習活動

第 1 時（第一次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 単元の目標を確認する。 ○ 教材文の構成を捉える。 ○ 教材文における段落の役割を確認する。 ○ 筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかを確かめる。 ○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 文章に説得力をもたせる工夫について考えることを理解させる。 ・ 文章に説得力を感じたかを書かせておき、第 3 時の指導につなげる。 ・ 段落の役割について考えさせる。 ・ あらかじめ一人 1 台端末にヒントを配信し、必要に応じて参照できるようにしておく。 ・ 意見と根拠がどのようにつながっているか整理させる。 ・ 振り返りシートに記入させる。	〔知識・技能〕 ① ワークシート

第2時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 「仮説の検証1」、「仮説の検証2」がどのような構成になっているかを考える。 ○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	- 意見と根拠がどのように結び付いているかを考えることを理解させる。 - ワークシートを活用し、構成に着目して考えさせる。 - あらかじめ一人1台端末にヒントを配信し、必要に応じて参照できるようにしておく。 - ワークシート記入後、生徒同士で説明させる。 - 振り返りシートに記入させる。	〔知識・技能〕① ワークシート

第3時（第1次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 教材文と資料文を比較して、文章の説得力を高めるための工夫について考える。 ○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	- 文章の説得力を高めるために効果的であったところについて考えることを理解させる。 - 生徒が説得力を高める工夫に自ら気付けるよう、教材文から一部を除いた資料文を複数種類準備する。 - 学習班を担当A、担当Bに分け、担当ごとに異なる資料文を用いて考えさせる。 - あらかじめ一人1台端末にヒントを配信し、必要に応じて参照できるようにしておく。 - 担当ごとに集まり、考えたことを確認させる。 - 学習班に戻り、各担当が考えたことを相互に説明させる。 - 振り返りシートに記入させる。	〔思考・判断・表現〕① ワークシート、観察 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 振り返りシート

第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について、自分の考えをまとめる。 ○ 単元の学習活動を振り返る。	- 文章に説得力をもたせる工夫について考えることを理解させる。 - 前時までのワークシートを基に意図的に例を示し、ゴールイメージをもたせる。 - 文章に説得力をもたせる工夫について、ワークシートにまとめさせる。 - 教材文の叙述を基にしながら意見をまとめさせる。 - あらかじめ一人1台端末に文型を配信し、必要に応じて参照できるようにしておく。 - 振り返りシートに記入させる。 - 前時までの記述との変容を見取る。	〔思考・判断・表現〕① ワークシート 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 振り返りシート

6 検証授業の成果と課題

第1学年では、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容の分析結果を以下に示す。（対象生徒70人）

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
(1) 文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考えることができたか。	51.6%	37.5%	10.9%	0.0%
(2) 根拠を明確にして考える力を身に付けるために、試行錯誤をしたか。	55.6%	36.5%	7.9%	0.0%

＜指導事例２：第２学年＞ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える力を育成する指導事例

1 単元名

読者の共感を得るための工夫を考えよう

2 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	① 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)	① 粘り強く文章を比較し、学習の見通しをもって共感を得るための筆者の工夫について考えようとしている。

4 教材

- 教材文（「君は『最後の晩餐』を知っているか」布施英利「国語２」光村図書）
（『最後の晩餐』の新しさ 藤原えりみ「国語２」光村図書）
- ワークシート

5 主な学習活動

第１時（第１次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 単元の目標を確認する。 ○ 共感を得るために必要な要素について考える。 ○ 教材文の内容について確認する。 ○ 文章の構成、論理の展開、表現の効果について整理する。 ○ 共感を得るための筆者の工夫について考える。 ○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 読者の共感を得るための工夫に対して自分の考えをもつことを理解させる。 ・ 既習事項を基に考えさせる。 ・ 接続語や、印象に残った言葉に印をつけるよう指示する。 ・ 既習事項を基に、ワークシートを活用して取り組ませる。 ・ ワークシートを基に、自分が気付いた筆者の工夫について考えさせる。 ・ 振り返りシートに記入させる。	〔知識・技能〕① ワークシート

第２時（第１次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 二つの教材文を比較して、読者の共感を得るための筆者の工夫について考える	・ 二つの教材文を比較して、読者の共感を得るための工夫について考えることを理解させる。 ・ 前時のワークシートを基に比較の観点を確認させる。 ・ 班の中で観点ごとの担当を決め、ワークシートを活用して二つの文章を比較させる。	〔知識・技能〕① ワークシート

○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	- あらかじめ一人1台端末に複数の種類のワークシートを配信し、自身の学習状況によって選択できるようにしておく。 - 個人で考えさせた後、同じ観点を担当した生徒同士で交流させる。 - 再び学習班に戻って自分の担当した観点で考えた読者の共感を得るための工夫について相互に報告させる。	
	・ 振り返りシートに記入させる。	

第3時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。	・ 読者の共感を得るための工夫について、根拠を明確にして考えることを理解させる。	
○ 読者の共感を得るための工夫について、根拠を明確にしながら意見をまとめる。	- 前時の学習を基に、二つ以上の観点から根拠を示して意見をまとめさせる。 - 教材文の叙述を根拠とするよう指導する。 - あらかじめ一人1台端末にワークシートの記入例を配信し、必要に応じて参照できるようにしておく。 - 相互に発表させ、意見と根拠のつながりが適切かどうかを確認させる。	〔思考・判断・表現〕① ワークシート
○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	- 振り返りシートに記入させる。 - 授業後に振り返りシートを確認し、生徒の学習状況を把握する。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ワークシート

第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。	- 読者の共感を得るための工夫について考えたことを、より確かなものにしていくことを理解させる。 - 前時までの振り返りを基にモデルを示し、根拠を明確にして考えを述べる方法について全体で確認する。	
○ 読者の共感を得るための工夫について考えたことを、より確かなものにする。	- 前時のワークシートを学習班で交流し、相互評価させる。 - 相互評価を通して新たに気付いたことや改善点があれば、ワークシートに色ペンで追記させる。 - 相互評価を踏まえ、改めて考えをまとめさせる。	〔思考・判断・表現〕① ワークシート
○ 本単元の学習活動を振り返る。	- 振り返りシートに記入させる。 - 第3時の記述との変容を見取る。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ワークシート

6 検証授業の成果と課題

第2学年では、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容の分析結果を以下に示す。（対象生徒 76 人）

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
(1) 文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考えることができたか。	63.2%	32.9%	2.6%	1.3%
(2) 根拠を明確にして考える力を身に付けるために、試行錯誤をしたか。	68.4%	27.6%	2.6%	1.3%

(1) 成果

ア 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

既習事項を基に観点を明確にしてから文章を比較させたことで、読者の共感を得るための工夫について主体的に本文の叙述を基に考えさせることができた。さらにワークシートの構成を工夫して根拠を書かせる記入欄を設けたことで、意見と根拠の結び

イ 意図的・計画的な振り返りの設定

また、毎時の振り返りの際にも、不十分であったと考える場合には次回どのようにすれば目標を達成できるかを記入させることで、学びの調整につなげることができた。

「表現」に着目し、本文の叙述を基に考えをまとめている。

「論理展開」に着目し、本文の叙述を基に考えをまとめている。

表現	論理展開	構成
「かっこいい」等の親しみやすい表現が使われている。 問いかけや体言止めが使われている。	……	……
……	……	……

読者は「最後の晩餐」を知っているから

「最後の晩餐」の紹介

まず、二人の芸術家の作品を提示して十三人が食卓を囲む構図の難しさについて説明している。その後、カスターニョの作品を用いて、奥行きや感情表現の発達について説明している。最後にレオナルドの作品を提示することで、他のどの作品よりも優れているという説得力をもって説明している。

構図について、二人の芸術家と比較したうえでレオナルドの優れている点を説明している。

視点
構成
論理展開
表現

他の芸術家とレオナルドの比較

観念
構成
論理展開
表現

問いかけや体言止めを多く使用している。

・題名「君は『最後の晩餐』を知っているか」
・「この絵の主人公はキリスト。」
・「人物の輪郭が作る形。その連なり。」等

題名が問いかけであることによって、内容に興味をもたせ、読者を文章の世界に引き込むことができる。また、体言止めを用いることで印象を強め、筆者のメッセージを強調して伝えることができる。

読者の共感を得るための工夫

「表現」に着目し、本文の叙述を基に考えをまとめている。

「論理展開」に着目し、本文の叙述を基に考えをまとめている。

学習班での交流を通して新たに気付いたことを色ペンで追記している。

生徒の主体的な学習を支援するために、活動の前に教師による説明を丁寧に行った。しかし、説明を繰り返したり情報量が多すぎたりしたことにより、かえって生徒を混乱させてしまう場面があった。単元で育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせるためには、学習活動を精選する必要がある。教師が説明する部分と生徒に学びを委ねる部分を学習過程の中に計画的に配置できるよう、事前に教師自身が活動を試行してモデルを作成してみるといった教材研究に取り組み、学習過程を十分に検討することが大切であると考える。

＜指導事例 3：第 3 学年＞ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する力を育成する指導事例

1 単元名

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価しよう

2 単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
〔知識及び技能〕 (2) ア
- (2) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ウ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。 (2) ア	① 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 (C (1) ウ)	① 粘り強く具体的な表現に着目して文章を比較し、学習の見通しをもって文章の分かりやすさについて評価しようとしている。

4 教材

- ・教材文（「人工知能との未来」羽生善治「国語 3」光村図書）
（「人間と人工知能と創造性」松原仁「国語 3」光村図書）
- ・ワークシート

5 主な学習活動

第 1 時（第 1 次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 単元の目標及び学習課題を把握する。	・ 二つの教材文を比較し、どちらがより分かりやすいか根拠を示しながら評価することを理解させる。	〔知識・技能〕 ① ワークシート
○ 教材文を読み、それぞれの内容と構成について確認する。	・ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について既習事項を確認させる。 ・ 既習事項を踏まえ、どちらの文章が読みやすいと思うか考えながら読むよう指示する。 ・ 複数の種類のワークシートを用意し、生徒が自らの習熟度に応じて選択して取り組めるようにする。	
○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 振り返りシートに記入させる。	

第 2 時（第 2 次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。	・ 観点を設定して二つの教材文を比較することを理解させる。	〔思考・判断・表現〕 ① ワークシート
○ 自ら観点を設定し、二つの教材文を比較しながら読む。	・ どちらの文章が分かりやすいかを評価するために自ら設定した観点ごとに二つの教材文を比較し、ワークシートに整理させる。 ・ 生徒が自らの習熟度に応じて選択して取り組めるよう、複数種類のワークシートを用意する。	

○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 振り返りシートに記入させる。 ・ 授業後に振り返りシートを確認し、生徒の学習状況を把握する。	[主体的に学習に取り組む態度] ① 振り返りシート
----------------------	---	------------------------------

第3時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。	・ 評価の観点や根拠の示し方について、考えを深めることを理解させる。 ・ 前時までの振り返りを基にモデルを示し、根拠を明確にして考えを述べる方法について全体で確認する。	
○ 設定した評価の観点や根拠の示し方について交流する。	・ 「どちらの文章が分かりやすいと考えたか。」「評価するためにどのような観点を設定したか。」「考えの根拠となるのは教材文のどの部分か。」についてグループで意見交換させる。 ・ 新たに気付いたり考えたりしたことはワークシートに色ペンで追記させる。	[思考・判断・表現] ① ワークシート
○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	・ 振り返りシートに記入させる。 ・ 授業後に振り返りシートを確認し、生徒の学習状況を把握する。	

第4時（第2次）

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
○ 本時の学習の見通しをもつ。	・ 「どちらの文章が分かりやすいか。」というテーマで文章を評価することを理解させる。	
○ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する。	・ 前時までのワークシートを基に 300 字程度の文章にまとめさせる。 ・ 複数の種類のワークシートを用意し、生徒が自らの習熟度に応じて選択して取り組めるようにする。	
○ 単元の学習活動を振り返る。	・ 振り返りシートに記入させる。 ・ 第2時の記述との変更を見取る。	[主体的に学習に取り組む態度] ① 振り返りシート

6 検証授業の成果と課題

第3学年では、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価する力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容の分析結果を以下に示す。（対象生徒 120 人）

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
(1) 文章の構成や論理の展開、表現の効果等について根拠を明確にして考えることができたか。	50.0%	29.2%	14.2%	6.7%
(2) 根拠を明確にして考える力を身に付けるために、試行錯誤をしたか。	57.5%	23.3%	14.2%	5.0%

(1) 成果

ア 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

観点を明確にしなが教材文を比較させることで、それぞれの文章の特徴について主体的に考えさせることができた。教師が「評価のテーマ」を示し、生徒にはそのテーマで評価するための「評価の観点」を考えさせた。自分で考えることが難しい生徒には、既習事項である「段落の役割」、「文章の構成」、「情報と情報との関係」等を参考とするよう指導した。「評価のテーマ」や「評価の観点」といったキーワードについては、第1時に明確に定義付けたうえで一貫して使用することで、生徒が単元の目標に正対し続けられるよう工夫した。

また、難易度の異なる複数種類のワークシートを用意したことで、生徒が自らの習熟度に応じて課題に取り組む姿が見られた。

イ 意図的・計画的な振り返りの設定

「評価の観点」の設定や、自分の意見を支える根拠の示し方について、生徒の学習状況を見取るために第2時、第4時の振り返りを重視した。第2時の振り返りシートの記述から、学習を進める上で課題となっている点を教師が把握し、第3時に全体で指導したことで、多くの生徒が単元の目標を再確認しながら第4時の学習に取り組むことができた。

【第3時・第4時における生徒の活動の例】

ワークシートに整理したことを基に、
どちらの文章が分かりやすいかについて考えをまとめている。

観点	構成	論理の展開	表現	……
人工知能との未来	提示する話題を序論で簡潔に述べている。	棋士としての体験を根拠にして主張を述べている。	事実と意見を同じ段落で述べている。	敬体を用いて丁寧に説明している。
人間と人工知能と創造性	人工知能の説明や、これまでの研究について序論で丁寧に説明している。	これまでの研究の結果を根拠にして主張を述べている。	事実と意見で段落を分けて述べている。	常体を用いて明確に説明している。

学習班での交流を通して新たに気付いたことを色ペンで追記している。

「人工知能との未来」の本論では、人工知能のブラックボックス性や「恐怖心がない」点などの事実が述べられ、それぞれ同じ段落に筆者の考えも述べられている。

それに対して「人間と人工知能と創造性」の本論は、七段落までで事実、八段落で事実を基にした筆者の考えが述べられている。また、事実は人工知能の得意なことと苦手なこと、そして人間の得意なことを段落ごとに整理しながら述べている。「人間と人工知能と創造性」は、事実と考えが明確に分かれている点、内容が段落ごとに整理されている点から、分かりやすい文章だといえる。

(2) 課題

本単元では、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価させたが、文章の「内容」ではなく「形式」について考えることは、生徒にとって難しい学習課題であった。本単元においては「評価のテーマ」や「評価の観点」といったキーワードを明確に定義付けて丁寧に指導することで生徒の学習を支援したが、それだけでは不十分であると感じている。文章の形式について根拠を明確にしながら考える学習は、第1学年から系統的に積み上げていく必要があり、そのためには「解説」の指導事項に示される資質・能力を身に付けさせる指導を、教師が確実に実践していくことが大切である。

VI 研究のまとめ

本研究では、「根拠を明確にして考える力を育成する『読むこと』の指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

1 研究の成果

(1) 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

「読むこと」の指導の工夫として、観点を明確にして文章を比較したり関係付けたりして、自分の考えを支える根拠となる段落や部分などに着目できるようにする言語活動を設定した。このことで、文章の構成や論理の展開、表現の効果等について叙述に基づきながら考えようとする生徒の姿が見られた。また、比較の観点を明確にしたことで、それぞれの文章における共通点や相違点、独自性などを生徒自身に気づかせることができ、グループ活動等で自分の考えを表現する際に、根拠となる段落や部分などを示しながら説明する様子が見られた。こうした言語活動を通して、文章の形式について精査・解釈することによって、根拠を明確にして考えることができたと考えられる。

(2) 意図的・計画的な振り返りの設定

内容や時間のまとまりごとに学習の進め方を振り返らせた。このことで、文章の形式について根拠を明確にして考える力をどのようにして身に付けるか、生徒自身に考えさせ、学習の調整を促すことができた。また、単元の学習の中で生徒の学習状況を把握することで、教師の指導内容の改善にも役立てることができた。

以上(1)(2)から、根拠を明確にして考えさせるための言語活動を設定するとともに、意図的・計画的な振り返りを設定することは、生徒が文章の形式について根拠を明確にして考える力を育成することに有効であると考えられる。

2 研究の課題

(1) 根拠を明確にして考えさせるための言語活動の設定

「比較の目的」や「比較の観点」が適切でないために、生徒が文章を適切に比較したり関係付けたりすることができなくなる場面があった。教師は「解説」の指導事項に照らして単元の目標を設定するとともに、教材の特性に応じて「比較の目的」や「比較の観点」等を十分に検討していく必要がある。

(2) 意図的・計画的な振り返りの設定

自己の変容を実感できなかつたり、振り返りが適切にできていなかったりする生徒は、学びが伴わないまま、自己評価だけが高くなってしまいう傾向があった。教師は、ワークシートや振り返りシートの記述を基に生徒一人一人の学習状況を見取り、個別に助言を加え、単元の目標に正対した学習を支援する必要がある。

令和6年度 教育研究員名簿

中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
世 田 谷 区 立 芦 花 中 学 校	主 任 教 諭	丹 野 緑
北 区 立 堀 船 中 学 校	主 任 教 諭	堀 口 千 尋
練 馬 区 立 貫 井 中 学 校	主 任 教 諭	森 田 美 季
八 王 子 市 立 第 二 中 学 校	主 任 教 諭	山 本 泰 江
府 中 市 立 府 中 第 四 中 学 校	主 任 教 諭	◎渡 邊 大 輔
国 分 寺 市 立 第 四 中 学 校	主 任 教 諭	木 村 美 里
武 蔵 村 山 市 立 第 一 中 学 校	主 任 教 諭	矢 部 峻 隆

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 福住 貴夫

令和 6 年度
教育研究員研究報告書
中学校・国語

令和 7 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849